

---

# ゴムパッキン くらいしす！

能美夜澄

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「ゴムパッキン くらいしす！」

### 【著者名】

能美夜澄

N4683N

### 【あらすじ】

宇宙、それは果てしないロマン  
宇宙、それは永遠の溶けない謎

この物語は宇宙の神祕に挑戦する若者を描いた短編である

(前書き)

この物語はファイクションです

地球は既にマルハダ力にされている。

やれ神様のしわざだ、とか、妖怪のいたずらだなんて言っていた、災害や疫病なんかもあらかた理由を解析された。

まつしろだつた世界地図も、今では総て埋められて、海洋を横断する怪獣や、宝島を書き加える余裕もない、そんな時代。

不思議なんてないさ、未知なんてないのぞ。  
ひねくれた若者がうつむきながらそんなことを謳づ、ちょっとだけ  
狭苦しい世の中にも。

世界を広げるカギは、少し目線を上に向けたトコロに掛けられていて、対応するトビラはそこいらの物陰に、照れ臭そうに身を隠しながら、見つかるのを待っているはずだ。

煩わしい蝉のオーケストラも佳境に入り、夏も真っ盛りの某日。

近年の異常気象の例に漏れず、今年もビックイベントを迎えるよつとしていた。

なんでも、つい先日発見され名付けられたばかりの彗星が、夜空に立派な尾を曳きながら、遠路はるばる我らが地球の、極東の島国の近くまでやってきてくれるらしい。

彗星。ホウキ星。身も蓋もない言い方をすれば塵や氷の寄せ集まつた宇宙のゴミ。

その存在は昔から古事もしくは凶事の前触れとされており、多くの奇妙な信仰やら学説やらを生み出したそうだ。

宇宙からみたら微細な塵でも、地に足をつけ、空を見上げるしかなかつた太古のチキヨージンにとつては理解を越えた現象のはずだ。灯りもなく闇夜を、季節のローテーションはあるだろうが、変わらない星明かりが煌々と照らしている中に、突然巨大な光のカタマリが現れたらびっくり。

俺なら全力で逃げ出すね、地球の裏側まででも。意味ないけど。

昔ハレー彗星が地球に近づいた時、日本人は自転車のチューブを買ひ占めたそうだ。

なんでも、『彗星の尾には毒が含まれていて吸つたら死んでしまう。だから通過するまではチューブにつめた空氣のみでやり過ごせ』そんなことが新聞に書かれていたらしい。無知とはまことにオソロシや。

なんて、この度の彗星騒動に先駆けて仕入れた益体のない情報を反芻しつつ、俺は彗星の接近を待ちわびていた。

秘蔵のブタさん蚊取り線香の底力に期待を懸けてガラス窓を全開に、  
買い置きのやつすいソーダ味の棒アイスをくわえながら生ぬるい夜  
の空氣に上半身を突っ込んで、窓のサッシに嵌まつたゴムパッキン  
の弾力を味わいつつ、またり天体観測と洒落込んだのだ。  
実にいいふにふに感だ。ゴムパッキンよ、結婚してくれ。

シックな黒いカラーからはやんごとなき気品を感じる。  
光を反射することなく全てを受け入れる漆黒。ふにふにとした表  
面に触れていると、深い慈愛に、口の口を暖かく包まれていふよう  
だ。

手入れを欠かすと、湿氣の多い梅雨なんかはすぐにカビに覆われて  
しまうあたりも庇護欲をくすぐられる。

なんといつ素敵物質。愛してる。だがコイツは無機物で俺との間には  
は越えようがない果てしなく高い壁がある。

俺は泣いた。舐めた。少しニガイ味がした。

最も日本に近付くとされる時刻が今夜22：45分。ただいま15  
分前。

俺はこじう微妙な待ち時間が苦手だ。お世辞にも集中力があるとは、天地神明に誓い、断じて言えないがために、いつもチャンスを  
逃してしまつのだ。

よく試験の前にある待機時間。やれエンピツ使えたとか持ち物を落  
としたら拳手をしろだとかいう耳にタコができるほど聞いたオハナ  
シを再び聞かされる。

そんな話を聞かされている間に、俺の緊張はは緩やかに減少してい

や、それに比例するよつに溜め込んだ知識は分解されていく。

いや、断じて俺が勉強していない訳ではないぞ？！

『氣づくと蝉の声は止んでいた。

先程まで生暖かかったはずの外氣はぱざぱざひやりとしているよつで、俺は自然と肩をすぼめる。

さつきまでふにふにと弾力を返してくれていたゴムバッキンも、心なしか身を硬くしているよつだ。大丈夫だ、お前は俺が必ず守る。

そう胸に誓い、空を見上げると

ハスキーボイスの悲鳴とともに

ギラギラと輝く紫色が眼前に迫っていた

緊急事態ながらもああこの声なんか好みだな、なんて思いながら

全力で窓を閉めた。ガラスにヒビが入ったのは気のせいに違いない。割れませんようにホントお願ひします。

ぐちゃり、と窓ガラスに衝突し付着した紫色のスライム（ギンギラギンに発光中）は、ヒビ割れた部分から室内に侵入した。謎のハスキーな呻き声も断続的に聞こえる。

俺は仰け反つて狂乱している。ヤバいコレ宇宙からの侵略者だ地球は狙われてしまつたんだ人生終わったな父さん母さん俺は今宇宙人に喰われて生涯を閉じてしまつます嫁さん（ゴムパツキン）を紹介できないままに先立つ不幸をお許しください。

そんな風に暴走しながら俺の嫁を見つめると嫁さんは紫色のヌメヌメに寝取られてしまつっていました。

そこで俺の意識は途切れた。

目を覚まし後に始まるのは

地球人と宇宙人。有機物と無機物。人間とゴムパツキン。

そんなつまんない分類なんて一瞬で消し飛んでしまつような空前絶後のストーリー。

ヘタレな俺には心の準備がたつぱりと必要なよつなので、深い、深い眠りに就く。

その途中、俺が恋をしたハスキーボイスで、おやすみ、なんて言う声が聞こえた気がした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4683z/>

---

ゴムパッキン くらいしす！

2011年12月15日22時49分発行